## 1 水 稲 1)使用方法

1)使用力	<b></b>				
薬剤名	使用目的	使用量	使用方法	使用時期	備考
	節間短縮による	$3\sim4 kg/10a$	湛水散布	出穂 20~10 日	・本剤を使用した水田土を野菜類の
粒剤	倒伏軽減			前	育苗床土に使用しない。
(イソフ゜ロチオラン	登熟歩合向上			ただし、収穫	・湛水状態でまきムラのないよう均
:12.0%	[本田]			45 日前まで	一に散布し、散布後は少なくとも 3
・ハ゜クロフ゛トラ					~4 日間は湛水状態を保ち、散布後7
ゾ゛ール					日間は落水、かけ流しはしない。
:0.45%)					・黒ボク土壌の水田では効果がない
					ことがある。
					・重複散布や多量散布は、薬害を生
					じたり、後作物や次年度の作物に影
					響する場合があるので使用量を厳守
					する。
カルパー粉	発芽率の向上	乾燥種籾重量	湿粉衣	播種前	・粉衣には浸種した籾を用い、十分
	苗立歩合の安定	の等倍	(地上播種		水切りした後に粉衣する。
	[直播水稲]	~2 倍量	用、空中散播	N/A/N	・浸種は鳩胸状までとする。芽を切
シウム: 16.0%)	E - 3H - 4 - 1H 3	- 11	及び無人ヘリコ		った籾は粉衣の際に欠損するおそれ
,,			プターによる		があるので使用しない。
			散播用)		・種籾消毒をする場合は、本剤の粉
			15/4H/14/		衣前に種子消毒剤の所定濃度液に浸
					漬する。
スマレクト	節間短縮による	2~3kσ/10a	湛水散布	出穂	・本剤を使用した水田土を野菜類の
	倒伏軽減	3kg/10a	.,	20~7 日前	育苗床土に使用しない。
	[本田]	(石原スマレク	による散布	20 1 11 111	・湛水状態でまきムラのないよう均
粒剤	[/平四]	ト粒剤のみ)	(石原スマレ		一に散布し、散布後は少なくとも3
(ハ゜クロフ゛トラ		L. And Hill A. D. O. C. J.	クト粒剤の		~4日間は湛水状態を保ち、散布後7
ゾール			み可能)		日間は落水、かけ流しはしない。
·	登熟歩合向上	3kg/10a	湛水散布。	出穂	・黒ボク土壌の水田では効果がない
	金級多百両工 [本田]	3Kg/10a	他の取引。	20~10 日前	ことがある。
	[本田]			20~10 日前	・重複散布や多量散布は、薬害を生
			レクト粒剤		じたり、後作物や次年度の作物に影
			は無人ヘリコプ ターによる散		響する場合があるので使用量を厳守
			布可能)		する。
タチガレエ	) 1 .++·17+·11.	C - 0 /5%		極種芸	
		6~8g/箱	育苗箱土壌	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	・育苗箱土壌に混和する場合はなる
	根の生育促進 [箱育苗]		に均一に混		べく播種直前に行う。
	根の生育促進に	<b>北</b> 烟壬目の 00/	和。 過酸化カルシウム	松本子	
		<b>丸材里里の3%</b>		1   1   1   1   1   1   1   1   1   1	
	よる苗立の		剤に添加し		
M:0.25%)	安定[湛水直播]		て種籾に粉		
h 1 . E .	) +++17++ .1	E00 1 000 H	衣する。	₩ 1€n+	
	ムレ苗防止、	500~1,000倍	土壌灌注	播種時	
	根の生育促進	(希釈液 500ml		または	
				発芽後	
	進 [ 依 去 # ]	1,00倍		播種時	
	[箱育苗]	(希釈液 10 /			
M:2.0%)	I	箱)		I	
	根の生育促進	4~8g/箱	育苗箱土壌	播種前	・土壌混和する場合はなるべく播種
	移植時の発根及		に均一に混		直前に行う。
	び活着促進		和する。		
	ムレ苗防止				
:4.0%)	[箱育苗]				
	根の生育促進に	乾籾重量の 3%	過酸化カルシウム		・過酸化カルシウム剤に添加して使用する
			İ	I	
	よる苗立の安定		剤に添加し		場合は十分混合して 種料に温粉衣す
	よる苗立の安定		剤に添加して種子に湯		場合は十分混合して種籾に湿粉衣す
	よる苗立の安定 [湛水直播]		剤に添加して種子に湿粉衣する。		場合は十分混合して種籾に湿粉衣する。

※箱育苗:箱の大きさは 30cm×60cm×3cm、使用土壌の量は約50

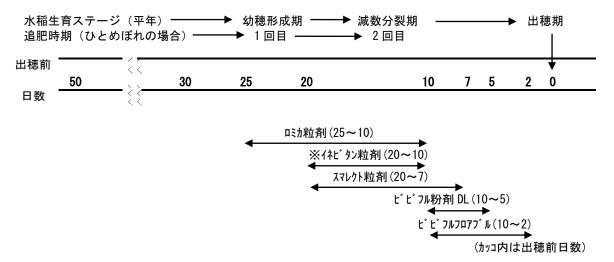
薬剤名	使用目的	使用量	使用方法	使用時期	備考
タチガレン	根の生育促進	500	土壌灌注	播種時及び発	
液剤	移植時の発根及	~1,000倍		芽後	
(ヒト゛ロキシイソキ	び活着促進	(希釈液 500m			
サソ゛ール	ムレ苗防止	0 /箱)			
:30.0%)	[箱育苗]				
ビビフルフ	節間短縮による		茎葉散布	出穂 10~2 日	・多量散布や重複散布にならないよ
ロアブル	倒伏軽減	/10a(散布液		前	うに注意する。
(プ゚ロヘキサシ゛オ	[本田]	量通常 50~			・出穂予測を参考に必ず適期に散布
ンカルシウム塩 :1.0%)		1500 /10a 少量 25~500			する。
.1.0/0/		夕重 25°500 /10a)			
		100m@ /10a	無人へリコフ゜ター		
		(散布液量	による散布		
		800m@ /10a)			
ビビフル粉	節間短縮による	3∼4kg/10a	散布	出穂	・多量散布や重複散布にならないよ
剤DL	倒伏軽減			10~5 日前	うに注意する。
(プロヘキサシ゛オ	[本田]				・出穂予測を参考に必ず適期に散布
ンカルシウム塩					する。
:0.12%)	코스타 IF A 그 - I	11 /10	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	Ulife oo	Ht Lillian in the control of the con
フジワン	登熟歩合向上	1kg/10a	湛水散布		・湛水状態でまきムラのないよう均
1キロ粒剤 (イソプロチオラン	[本田]			前ただし「四種	一に散布し、散布後は少なくとも 3 ~4日間は湛水状態を保ち、散布後7
:36.0%)				7. C. C. 、収穫 30 目前まで	日間はベス恵を保ら、飲和後で日間は落水、かけ流しはしない。
. 30. 0/0/				20 H HI & C	・稲の登熟歩合向上を目的として使
					用する場合は低温等生育不良条件下
					及び高温登熟条件下で効果的。
フジワン	ムレ苗防止	15g/箱	本剤の所定量	播種前	
粒剤	[箱育苗]		を所要量の育		
(イソフ゜ロチオラン			苗箱用の床土		
:12.0%)			に均一に混和		
	\		する。		
	ムレ苗防止	25~50g/箱	本剤の所定量を		
	根の伸長及び 発根促進		育苗箱中の苗の 上から均一に散	称16年期	
	[箱育苗]		粒する。		
	登熟歩合向上	4kg/10a	湛水散布	出穂	・湛水状態でまきムラのないよう均
	[本田]	8,	12.4.12.11	20~10 日前	一に散布し、散布後は少なくとも3
	高温登熟下にお			ただし、収穫	~4日間は湛水状態を保ち、散布後7
	ける			30 日前まで	日間は落水、かけ流しはしない。
	白未熟粒の発生				・登熟歩合向上を目的とする場合は、
	軽減				低温等生育不良条件下及び高温登熟
> > 1:1 -dest	[本田]	/	NII. I. III. I		条件下で効果的である。
ロミカ粒剤	節間短縮による	2∼3kg/10a	湛水散布	出穂	・黒ボク土壌の水田では効果が十分
(ウニコナソ゛ール	倒伏軽減			25~10 日前ま	
P:0.040%)	[本田]			で	・重複散布や多量散布は、後作物や次年度の作物に影響する場合がある
					が年度の作物に影響する場合がある ので使用量を厳守する。
					・本剤を使用した水田土を野菜類の
					育苗床土に使用しない。
オクソス DS	苗立歩合の安定	乾燥種籾重量	種子粉衣(湿	は種前	・粉衣には浸種した籾を用い、十分
(過酸化力		の 0.5 倍~等			水切りした後に粉衣する。
ルシウム		倍			・浸種は鳩胸状までとする。芽を切
:19.0%)		量			った籾は粉衣の際に欠損するおそれ
					があるので使用しない。
					・種籾消毒をする場合は、本剤の粉
					衣前に種子消毒剤の所定濃度液に浸
					漬する。

※箱育苗:箱の大きさは 30cm×60cm×3cm、使用土壌の量は約50

【注意】農薬使用に当たっては必ず農薬容器のラベルを確認し、有効成分ごとの総使用回数を遵守すること。

## 2) 水稲の倒伏軽減剤使用の目安

本田で倒伏軽減を目的として成長調整剤を使用する場合は、出穂予測を参考に必ず適期に散布する。また、追肥や病害虫防除の時期と重なることが多いので、計画的に作業を進めることが望ましい。



※イネビタン粒剤はアジワンにスマレクトを混合したもので、穂いもち防除を兼ねることが出来る。ただし育苗期や葉いもち防除等でアジワン、もしくはイソプロチオランを含む混合剤を使用している場合は、総使用回数等に留意する。